

## 令和3年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

【学校像】伝統ある普通科高校として、以下の学校をめざす。

- ・希望に応じた進路実現をサポートする学校
- ・次代を担う志高くたくましい人材を育てる学校
- ・地域に信頼され誇りとされる学校

【育てる力】授業・学校行事・部活動・地域連携等を通じて、以下の力を育む。

- ・確かな学力とキャリアデザイン形成力
- ・校訓「自律・敬愛・共創」 自ら規律を重んじ他者を敬愛しながら、共働して価値あるものを創り出す力をつける
- ・知徳体備わった豊かな人間性

## 2 中期的目標

## 1 学力向上と進路実現

- (1) 新学習指導要領と本校の実情や将来像をふまえ、「確かな学力」の定着と主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の取組みを図る。
- ア 各教科の授業改善について「生徒の発言を引き出し、表現力を高める授業づくり」を共通目標として推進し、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」をバランスよく育成していくことをめざす。
- イ 教員の授業相互見学や研究授業の活性化などを通して、教科横断的な授業改善の取組みを充実させる。
- ウ 「学校教育自己診断」や「生徒の授業アンケート」等を利用して授業力向上に努め、生徒の授業充実度を向上させる。
- エ 全教室に設置された電子黒板とホワイトボード板の活用と、GIGAスクール構想を踏まえたICTを効果的に取り入れ、授業改善の推進を図る。
- オ 指導と評価の一体化を図り、「観点別学習状況の評価」を進め、生きて働く「知識・技能」の習得、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力」の育成、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養を行う。
- \*「授業アンケート」の生徒の充実度（質問項目「興味・関心」「知識・技能」）について、1回目より2回目を0.02 Pアップさせる。
- (2) グローバル化や情報化社会に向けた国際的な視野をもとに英語コミュニケーション力を身につける。
- ア 「学習基礎」(毎朝のモジュール型学習：通称朝学)において、モジュールメディアステーション(一斉配信機能付き電子黒板)を活用して英語ディクテーション学習で「聴き・書き取る英語力」と「集中力」を身につける。
- イ 平成27年度学校経営推進費事業で支援された「英語多読・多聴ステーション」をさらに充実し発展させる。
- ウ 英語力の習得に特化した海外・校内語学研修の充実やスピーキングテストを実施することで、4技能を統合した発信する力を育成する。
- (3) 生徒の進路希望を実現させる。
- ア 進路目標に応じたコース(文理系・文系・総合)(R3.は文系・理系)の指導を強化し、講習・ガイダンス等の充実をはかるとともに、入試結果の実績維持・伸長をめざす。
- \*学力生活実態調査(Bゾーン以上の成績を有する生徒が、学年の過半数)及び、英語学力調査(スコア430点)
- \*中堅・難関大学現役合格者数及びセンター試験(大学入学共通テスト)出願者数が、8クラス規模で令和3年度280名及び80名以上、令和4年度230名及び100名以上。(H29.298名及び101名(9クラス)、H30.222名及び90名(8クラス)、R1.348名及び133名(9クラス)、R2.305名及び72名(8クラス))

## 2 総合的な探究の時間の推進

- (1) 校訓「自律・敬愛・共創」(平成30年7月設定)の志を持ったよき社会人として、多様な他者の考え方や生き方を相互に認め合いながら、新たな価値あるものを共に創り上げていく資質と能力を養うための総合的な探究の時間を推進する。
- ア 総合探究推進委員会は、分掌、委員会、教科、教員個人の実践やスキルの中から多くの効果的な情報を得て、より充実した取組みになるよう企画立案・実践していくことで「総合的な探究の時間」を推進していく。
- イ 修学旅行を総合探究推進の実践研修の一環としてとらえ、異種の文化・職場体験等を通してより具体的なキャリアデザインを形成できる機会となるよう企画する。
- ウ キャリア教育、ボランティア活動、ライフプラン作成、SDGs課題解決学習等、各分野での実践を検証し、充実・発展させていく。
- エ 人権教育、道徳教育を中心に、命の大切さを学び、自他を尊重する人権意識と、他者によりよく生きるための基盤となる道徳性を養い、一人ひとりが将来に対する夢や希望を持ち、自らの人生や未来を切り拓いていく力を育む。
- (2) 国際交流活動の充実を図る。
- ア 外部関係機関等と連携し、海外の高校生等との交流を通じて国際理解を深め、コミュニケーション能力を高める。
- イ 1～2学年においてイングリッシュデイズ(外国人講師のグループ別コミュニケーション・プレゼン研修)を2回実施
- (3) 読書活動の推進を図る。
- ア 図書館運営協議会を中心に読書活動の推進を図る。

## 3 府民に信頼される魅力ある学校づくり

- (1) 生徒指導・支援体制の確立(「自律・敬愛・共創」の志を育む)
- ア 支援相談委員会が、「高校生活支援カード」を活用して、支援を必要とする生徒の実態把握と個別の支援策を検討し、「個別の支援計画」を作成する。また、支援方法の研修を行い、教職員の共通理解と支援活動の充実を図る。
- イ 自治会活動の充実を図り、文化祭・体育大会等の諸行事について、生徒の主体性と自治運営力を高めて活性させ、充実感を育むとともに、地域や保護者との交流を通して、お互いの信頼関係を深める。
- ウ 生徒指導・支援のあらゆる場面において、生徒の規範意識やマナー意識等、また、あいさつ、自他を思いやる心を醸成する。また、遅刻数のさらなる減少、自転車事故等の防止に重点を置く。\*遅刻者数の前年度比の減少をめざす。
- エ 部活動の活性化を推進し、バランスのとれた心身の成長と健全な人間関係を形成する力の育成を図る。
- (2) 学校経営体制の強化
- ア 学校経営の機動性・円滑性を高めるため、組織力の強化を図る。
- イ 新任・若手教員、ミドルリーダーの育成を図る。
- ウ 働き方改革の取組みとして業務の効率化を促進し、意識の改善を図る。
- (3) 開かれた学校づくり
- ア より開かれた学校をめざし、積極的な情報提供や広報活動、ボランティア活動などを通して地域交流を展開していく。
- イ 令和4年の創立百周年記念事業に向けて「ALL ABENO 共創100周年伝統と志を地域とともに未来へ!」をスローガンに、創立100周年記念実行委員会の主導のもとに生徒・PTA・教職員・同窓会等のオール阿倍野態勢で、一丸となって取り組む。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
(1) 学力向上と進路実現	(1) 「確かな学力」の定着と授業改善 ア 授業改善と学力向上に向けた取組の強化	ア a 学習支援室と各教科が連携して、授業アンケート（年2回実施）学校教育自己診断、相互授業見学等に取り組み、結果を総合的に分析し、課題を共有し、更なる授業改善を進める。 b 管理職授業参観後のディスカッションや校内職員研修を通じて理解を深め、生徒の主体的な深い学びを引き出すスキルの向上を図る。 c 土曜学習会、補習、講習等学習支援の取組を充実させる。	ア a 授業アンケート、学校教育自己診断（以下、「アンケート」と記載）による生徒満足度、「わかりやすい授業・教え方に工夫」8割程度、教員のICT活用率6割程度をめざす。 b 管理職授業参観調査「グループ、ペア、自発的な相談時間で意見を共有させていた授業数」45%（令和2年度40%） c 「土曜学習会」参加者数平均135名。（令和元年度、平均131名）	
	イ 新教育課程の取組み	イ a 「将来構想委員会」を中心に、学力向上と進路実現に向けた新カリキュラム体制を構築する。 b 「主体的対話的な深い学び」の実現と「観点別学習状況の評価」に向けて、各教科において定期的に論理的なディスカッション活動を導入する。	イ a 学習指導要領改訂を踏まえた新教育課程の完成。 b 科目の特性に応じて、単元毎に最低1回以上、意見交換や意見発表等を実施。 ・管理職の授業参観で意見交換や意見発表の設定率5割以上。	
	ウ ICTを活用した授業実践	ウ a 生徒一人一台の端末の導入によるオンライン学習等に向けた取組を推進する。	ウ a ICTによる一斉学習、個別学習、協働学習の実践研修を、各学期に1回以上行う。	
	(2) 次社会に向けた力の育成	エ a 「学習基礎」(朝学)英語ディクテーション学習について年間計画をたて、「みる」「きく」等の感覚機能を活性化し、毎日の脳トレーニングを実施する。 b 英語科授業での「多読・多聴活動」を推進する。 c 英語4技能のうち「話す」力の向上をめざした外国人講師によるイングリッシュデイズ研修等、特別な取組を計画して実施する。また、海外語学研修や校内イングリッシュ研修を希望者に実施する。	エ a 一斉配信英語教材の研究と作成。授業アンケートによる取組意識の肯定率80%以上をめざす。 b 語数2・3年4万語1年3万語維持 c 全生徒対象のスピーキングテストを年1回以上実施。 ・1～2年時にイングリッシュデイズ研修2日 ・海外英会話研修への参加15名以上。 ・校内英会話研修への参加15名以上。 ・短期語学研修の生徒満足度9割。	
	エ 英語力、コミュニケーション力の育成			
	(3) 進路実現に向けての取組み	エ a 新教育課程における進路目標に基づいて、進路指導の方針を確立する。その中で「進学講習」「学習キャンペーン」等を推進し、質的・量的な充実を図る。 b 進路指導部と連携し阿倍高塾の授業内容の充実と映像教材の指導充実を図る。 c 入学時の学力の維持・向上に努めることを目標として、学力生活実態調査、英語学力調査等を用い、進路実現を図る。	エ a 平日の家庭学習時間60分以上の生徒の総数が学年総数の過半数を占めること。（令和元年度49.8%） b 阿倍高塾の生徒満足度60%の維持。	
	エ 進路指導	オ 学習ガイダンス、進路ガイダンス機能を充実させる。（選択科目説明会・進路別説明会・学問別説明会等の充実） a 年度当初に保護者の進路情報ニーズをきめ細かく把握する。 b 3次への進級に先立ち、2年次3学期に、センター試験受験の意義や効果的な受験対策について情報提供を行う。 c キャリアパスポートを作成し、個人の学習過程の記録を活用して将来の進路選択に生かす。	オ a 各説明会等での生徒および保護者アンケートの検証を経て、充実・改善を進める。 ・アンケート(保護者)「進路指導・情報提供に関する肯定値」80%の維持向上。 b センター試験出願者数割合4割程度。（令和元年度37%）	
	オ 生徒へのガイダンス機能の充実			

<p>(2) 志学・総合学習(探究)の推進</p>	<p>(1) 志学、人権・道徳教育、総合学習(総合探究)を総合的に行う実施計画推進</p> <p>(2) 国際交流活動の充実</p> <p>(3) 読書活動の推進</p>	<p>ア a 志学、人権・道徳、総合探究の各委員会で、学年と連携して新学習指導要領を踏まえた指導内容を充実する。</p> <p>b 総合探究でキャリア教育の取組みやSDGsの学習を計画的に推進する。</p> <p>c 修学旅行について総合探究授業に関連させた研修旅行として位置付ける</p> <p>イ これまでの取組みの検証を踏まえて、引き続き、芸術鑑賞、人権講演会、美化活動、挨拶キャンペーン、志学の川柳募集などを企画し、その充実を図る。</p> <p>ウ 「花いっぱい为学校・日本一きれいな学校」を目標に、『阿倍高を美しくする会』の支援とともに周辺地域のボランティア美化活動をより推進する。</p> <p>エ 人権教育、道徳教育推進計画を作成する。</p> <p>オ 国際交流委員会の活性化を図り、積極的に外国人短期研修等を受入れる(感染症対策の状況によって変動)</p> <p>カ 図書館を中心に読書・学習活動の推進を図り、読書習慣を身につける取組みを実施するとともにビブリオバトル(トーク)の推進を図る。</p>	<p>ア a 系統立てたキャリア学習を計画する。</p> <p>・アンケート(教員)肯定値「キャリア教育」6割以上。</p> <p>b 月1回以上、生徒間の議論を組み込んだ総合探究を実施する。</p> <p>c 修学旅行には1つの研修目的を含めて計画する。</p> <p>イ a アンケート(生徒)「豊かな心や生き方について考える機会がある」肯定値70%以上の維持。</p> <p>ウ アンケート(生徒)「授業にふさわしい環境」肯定値7割。</p> <p>生徒自治会、同窓会、保護者、教職員が連携して年間2回の美化活動の取組みを推進する。</p> <p>エ 拉致被害教材「めぐみ」を活用した人権教育を1回行う。</p> <p>オ・国際交流参加生徒数のべ80名以上(部活生徒含む)</p> <p>カ・図書館だよりの定期的発行(令和元年度5回を維持する)</p> <p>・年間貸出し冊数一人1冊以上をめざす。</p>	
<p>(3) 府民に信頼される魅力ある学校づくり</p>	<p>(1) 安全で安心な学校づくりと意欲ある学校生活</p> <p>ア 支援相談委員会の充実</p> <p>イ 生徒支援室関連業務の充実</p> <p>ウ 美化関係業務の充実</p> <p>エ 部活動の充実</p> <p>(2) 学校運営体制の強化</p> <p>オ 組織力の強化</p> <p>カ 教員の育成</p> <p>キ 働き方改革</p> <p>ク 保護者連携</p> <p>(3) 開かれた学校づくり</p> <p>ケ H.P、メール発信</p> <p>コ 広報</p> <p>サ 地域交流</p>	<p>感染症対策等、安全と安心を優先させることを前提におき、生徒満足度の向上を図り、授業と学校行事、生徒支援の各面でより一層生徒の主体性を育み、意欲ある学校生活を促す。</p> <p>ア 支援相談委員会を充実させ、ケース会議等を経て、生徒支援の充実を図る。「高校生活支援カード」を面談などで活用。</p> <p>イ a 自治会活動において生徒の主体性と自治運営力を向上させ、感染症防止対策を踏まえた体育大会や文化祭等各行事の進化、発展をめざす。</p> <p>b 遅刻指導を徹底する。</p> <p>c 安全な通学、特に自転車通学の事故防止のための巡回指導やカップ着用指導を充実させる。</p> <p>d 風紀委員の役割の充実。(挨拶・自転車駐輪指導等)</p> <p>e 生徒の健康管理の意識を高める。</p> <p>f 自治会とともに学校食堂の魅力の向上を図る。</p> <p>g 自然災害への防災体制の強化及び防災教育を推進する。</p> <p>ウ a 年3回の安全点検を実施し、危険を排除する。</p> <p>b 清掃が行き届く分担場所の工夫と清掃の確実な実施。</p> <p>c 生徒自治会を主体にクリーンキャンペーンを実施し、校内美化活動を通して愛校心と仲間意識を育む。</p> <p>エ 大阪府運動部活動の在り方に関する方針の主旨を踏まえ、バランスのとれた部活動を推進する。</p> <p>オ 教職員全体のチーム意識を高めるなど組織力の強化を図る。</p> <p>カ 若手養成講座の開催。</p> <p>キ 全校一斉退庁日及びノークラブデーの実施、長時間労働削減のための業務効率化と意識改革を図る</p> <p>ク 保護者との意見交換や意思疎通による連携を図る。</p> <p>ケ 改新されたホームページ、メールマガジンシステムの充実を図る。</p> <p>コ 広報活動の展開を図る。中学校訪問の戦略化を図る。</p> <p>サ 家庭科選択生徒や部活動生徒、有志生徒中心に地域行事やボランティア活動に取り組むことにより地域との交流を深める。</p>	<p>ア・アンケート(生徒)の「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い」の肯定値70%以上。</p> <p>・支援相談委員会の取組みを1.2学期末に全教職員で共有し、意思疎通を図る。</p> <p>イ a 各行事で生徒アンケートを実施。</p> <p>生徒満足度、9割の維持(体育大会、文化祭)</p> <p>b 遅刻者数 年間1人1.5回以内をめざす。</p> <p>c 自転車通学生徒の交通法規遵守、マナーの向上、カップ着用指導。年間事故件数、各学年1件以内をめざす。</p> <p>d 自転車駐輪に関する苦情件数0をめざす。</p> <p>e 保健HRの実施を行い、年間1回以上危険薬物についての知識を高める。</p> <p>f 食堂利用生徒の満足度を向上させるため自治会執行部と協議する。</p> <p>g 災害発生時等、緊急時の生徒の安否確認や連絡確認をメールシステムやH.P等で実施できる体制を整え、登録者を100%にする。</p> <p>ウ a 安全点検やアンケートを実施し、問題点は速やかに改善する。保護者からの指摘件数0件をめざす。</p> <p>b アンケート(教員)「清掃や設備点検がいきとどいている」の肯定値75%の維持。</p> <p>c クリーンキャンペーンへの参加者数300人以上維持。</p> <p>エ 適切な休養日及び活動時間の設定に基づいた年間計画表の提出。</p> <p>オ アンケート(教員)「各分掌・学年間の連携が円滑に行われ、各種会議で教員間の意思疎通や意見交換を行い組織的に機能している」平均60%への向上。</p> <p>カ アンケート(教員)「授業方法について検討する機会や経験の少ない教職員をサポートする積極的な体制がある」(令和2年度41%)の向上。</p> <p>キ 安全衛生委員会で月1回検証する。</p> <p>ク 各学年保護者会を1学期に実施する。</p> <p>ケ アンケート(保護者)「H.P、メルマガで情報提供されている」肯定値(令和2年度)77%の維持向上。</p> <p>コ 中学校訪問先を厳選し近隣中学校を中心に情報交換を実行する。</p> <p>サ 他校種や地域の方との交流回数のべ10回以上をめざす。</p>	